

授業概要

近代化によってもたらされたひずみが指摘され、東洋思想をみつめなおす動きがおこっている。東洋思想の歴史的展開を時代順に講義し、各思想の歴史的背景、時代的特徴、そしてその思想がもつ現在の意義を分析し、考察する。東洋思想の重要事項について基礎的知識を習得し、思想史料を批判的に分析・考察する力を身につける。

授業計画

|        |             |
|--------|-------------|
| 第 1 回  | 東洋思想とは      |
| 第 2 回  | 古代インド思想     |
| 第 3 回  | 釈迦の思想①      |
| 第 4 回  | 釈迦の思想②      |
| 第 5 回  | 釈迦の思想の伝播    |
| 第 6 回  | 日本への伝来      |
| 第 7 回  | イスラーム①      |
| 第 8 回  | イスラーム②      |
| 第 9 回  | 孔子の思想       |
| 第 10 回 | 福沢諭吉と文明     |
| 第 11 回 | 岡倉天心と東洋の理想  |
| 第 12 回 | R. タゴールと日本  |
| 第 13 回 | ガンディーと非暴力   |
| 第 14 回 | パール判事と日本無罪論 |
| 第 15 回 | ネルーと非同盟     |
| 第 16 回 | 筆記試験        |

到達目標

思想家、思想の生まれた歴史的背景、それぞれの思想家、思想内容の関連に留意し、現在における影響、現代的意味を理解する。また東洋思想に共通する潮流を理解する。

履修上の注意

東洋史概説の履修者がのぞましい。

予習復習

シラバスに従って思想、あるいは思想家についての基本的な知識を予習しておくこと。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

評価方法

授業中の態度、授業後に回収するリアクショペーパーの内容が 50%、学期末の筆記試験 50%として総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。